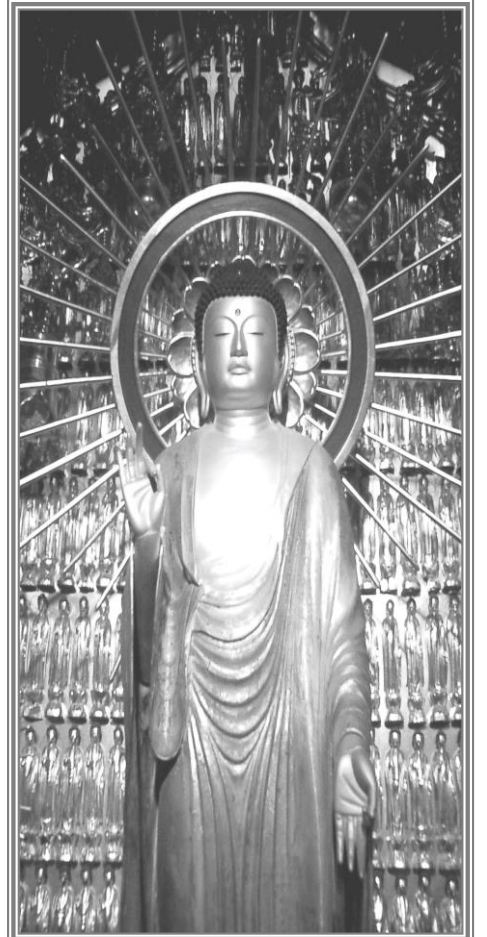




〒516-0015 伊勢市久世戸町96
本誓寺
 電話 0596-28-6905
 FAX 0596-28-6906

拝啓

新緑がまぶしい季節となりました。さて檀信徒の皆様には益々
 ご清祥の事と慶び申し上げます。
 お釈迦様のお誕生日を祝う花祭り法要、永代経志納精霊の
 追善供養、および一席のお説教を聞く半日法要を実施致します。

花まつり(永代経供養)厳修

一、日時

令和四年五月二十二日(日)
 午前九時集合
 九時二十分より 花祭り法要
 十時よりお説教
 十一時より永代経法要
 十二時解散

一、説教師

松阪市 大乘寺 堤 祥雄上人
 一〇〇〇円 ※当日受け賜ります。

一、出欠について

電話：〇五九六 二八 六九〇五
 お昼の用意してお申込みお願い致します。

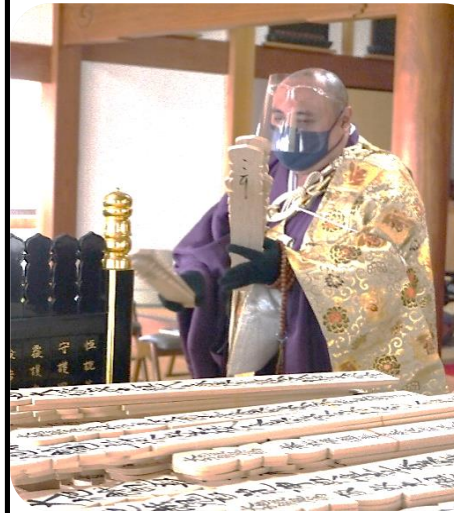
当日の登嶺について

- ※数珠は必ずお持ちください
- ※お袈裟お持ちの方は ご持参ください
- ※普段着でお越しください
- ※お経の本はお寺にて 用意致します。



春彼岸の際には私の家族のコロナ感染により、檀信徒の皆様には、急な変更をお願いしてご迷惑をおかけ致しました。
 また、皆様に見守られ通常の生活を送れるようになり、感謝致します。

去る三月二十七日(日)に、春季彼岸大施餓鬼会を厳修致しました。
世話人・女人講のご協力で厳修され、檀信徒皆様のお参りを頂きました。



甘茶ってどうして甘いのか？

花祭りに欠かせないものといえば甘茶。口に含んだ瞬間、パアッと広がる甘い味。その甘さに「砂糖が入っているのでは？」と思われる方も少なくありません。しかしながら甘茶には、砂糖は一切入っていません。
ではそもそも甘茶とは？
その正体は、なんとアジサイの仲間。しかも名もそのまま「アマチャ」という植物です。
日本では長野県、岩手県、富山県などで多く生産されています。このアマチャの葉を蒸し、乾燥させることによって甘味成分である砂糖の何百倍とも言われています。
その強い甘さから、砂糖が普及するまで甘味料として使われていました。また、現代でも糖尿病の方など、砂糖を控える必要のある方に代替食品として愛飲されているそうです。
今年の花祭りは、お寺にお参りするとともに、このヘルシーなお茶(甘茶)をお試しください。

灌佛会(かんぶつえ)



お釈迦様は約二千五百年前、現在のインド、ネパールの国境カピラという小国を治める釈迦族の王子として誕生しました。生母マヤー妃が出産の為の里帰りの途中、ルンビニーの花畑で誕生されたと伝えられており、その故事にちなんで花祭りと呼ばれています。

各寺院でも行うことが多い花祭りでは、お釈迦様誕生時の姿(誕生佛)をお祀りし、柄杓でおつむから甘茶をそそぎます『灌佛会』が本来の呼び方です。

『灌』とは、『そそぐ』ことで、経典によればお釈迦様が生まれると空から身体向けて温涼二種類の清らかな水流がそそがれたと伝えられています。灌佛は、産湯の代わりだったのです。

古代インドの儀式で『灌頂(かんちょう)』は、国王即位などにあたり、頭上(頂き)に世界中の海水に見立てた水をそそいで全世界を支配することを表す儀式です。

この『灌頂』の儀式は、佛教の中にも見られます。菩薩(ぼさつ)が佛(ほとけ)となる時、諸佛が(しょぶつ)菩薩の頭上に智慧(ちえ)の水をそそいでその証とするのです。